

授業科目名	対位法Ⅱ	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	小林 聡	単位	1	年次	3

＝授業のテーマ及び到達目標＝

対位法Ⅰに続き、2声対位法の高度な技術を身につける。課題の実施を通して、複数の声部の動きを意識できるようになり、音楽の奥深さや美しさを感じとり、対位法の知識・技術を、作・編曲や演奏に、より実践的に生かすことができること方法を理解する。

＝履修の条件と学習の方法＝

与えられた定旋律課題に対旋律を作成することを実習する。そのため、毎回の授業に五線紙と筆記用具を持ってくること。対位法Ⅰに比べ、内容がかなり複雑になる。効果的に実力を身につけるため、教科書をよく読んでおくこと。2/3以上の出席がない場合、理由に関わらず、失格とする。遅刻、早退、中途退席3回で欠席1回と見なす。また、授業時間の半分の時間(45分)を超過しての遅刻、早退、途中退席は欠席扱いとする。無断退席・無断退室禁止。携帯端末使用禁止。飲食禁止。

＝授業の概要＝

毎回の授業で、与えられた定旋律に対旋律を作成し、添削指導を受ける。2声対位法の常用なポイントである、二つの声部の各々が美しい旋律であり、また、二つの声部が互いに助け合い、美しい音楽を作り出していることを常に意識しながら、対位法の知識・技術を、自身の専門分野に生かす方法を理解する。最終的には、オブリガートとカノンの作成を試みながら、より実践的で高度な対位法の技術を身につける。

＝授業計画＝

- 1回 第1類と第2類の確認
- 2回 第3類：移勢対旋律 - 1 -
- 3回 第3類：移勢対旋律 - 2 -
- 4回 第3類：移勢対旋律 - 3 -
- 5回 第3類：移勢対旋律 - 4 -
- 6回 第3類：移勢対旋律 - 5 -
- 7回 確認テスト
- 8回 第4類：華麗対旋律 - 1 -
- 9回 第4類：華麗対旋律 - 2 -
- 10回 第4類：華麗対旋律 - 3 -
- 11回 第4類：華麗対旋律 - 4 -
- 12回 第4類：華麗対旋律 - 5 -
- 13回 オブリガートの作成
- 14回 カノン
- 15回 まとめ

＝テキスト（必携）＝

書籍名：二声対位法
 著者名：池内友次郎
 出版社：音楽之友社

＝参考書・参考資料（必携）＝

必要に応じて指示する。

=成績評価の方法と評価の基準=

定期試験、授業への参加姿勢、日頃の添削課題など、総合的に判断する。(85点以上A、70～84点B、60～69点C、59点以下D) 授業を著しく妨害した場合はC・D評価もありうる。

=その他=